

通山小は今年度も家庭・地域がつながって子どもたちの心を育てます

保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動への御理解と御協力を賜りましてありがとうございます。本年度も昨年度に引き続き、「道徳だより ころざし」を発行し（今年度は年間3回発行）、各学年の道徳の授業の取組や道徳教育の取組についてお知らせしていきます。ぜひ、御一読ください。

令和2年度の道徳教育重点内容（学校重点目標）

A 主として自分自身に関すること

自分のことをよく知り、よいところを伸ばすこと。

B 主として人の関わりに関すること

身近な人に思いやりの心で接し、親切にすること。

C 主として集団や社会の関わりに関すること

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

生命の尊さを知り、生命を大切にすること。

4年生の授業より

こんな学習をしました

「きめつけないで」という教材を使って、「公正・公平・社会正義」についての学習をしました。

<ねらい>

「わたし」の気持ちの変化を考えることを通して、誰に対しても偏見を持つことなく、公正・公平な態度接しようとする態度を育てる。



【考えを伝え合おう】

ほかの考え方とにているなあ。

教材の内容

劇の主演になりたい『ちさとさん』に偏見をもって接していた『わたし』は、ちさとさんの努力家としての一面を見て自分の誤りに気づき、公正・公平な態度へと変容する。「ちさとさんには、主演は無理だよ。」と話していたわたしが、どんな考えに動かされて「ちさとさんにぜひ主演を」と言ったのか。「わたし」の気持ちの変化を考えることを通して、公正・公平に接する態度を育てることができる教材である。

「なぜわたしは『ちさとさんにぜひ主演を』と言えたのだろうか。」

- 努力しているところを自分は知っていたから。
- 努力していることを何も知らない人たちが、できないと決めつけて言っていたから、体が動いたんだと思う。
- 頑張っている姿を見て、本気で主演になりたいんだなと思ったから。
- ちさとさんのがんばりが水の泡になってしまうから。
- がんばって練習していたから。

子どもの振り返りより

- 決めつけて言ったりしたらいけないと思った。
- 仲良しだからと言って、特別扱いをしてはいけないと思った。
- 等しく接しないとけんかも起こるんじゃないかと思った。
- 相手の気持ちも考えないといけないと思った。



6年生の授業より

こんな学習をしました

「団地と子犬」という教材を使って、「よりよいきまり」についての学習をしました。

<ねらい>

規則は、そのことに関わる人々が幸せに生活できるようにという願いを含めて人が作ったものであることを理解し、その一員としての自覚と責任をもって、進んで守ろうとする態度を養う。

教材の内容

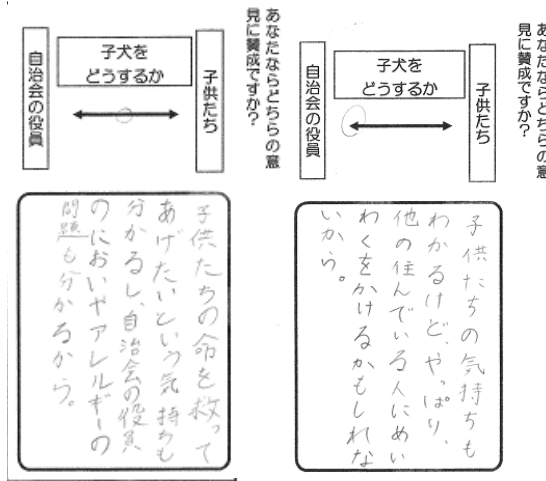
目の見えない子犬を拾った団地の子どもたちが、団地で飼って世話をしたいと自治会の役員に申し出るところから始まる。最初は、自治会の規則を重視するあまり受け入れることが困難であった役員たちも、他者の意見も謙虚に受け入れながら、自分たちの考えや意見を伝えようとする子どもたちの真摯な姿に、考え直そうとする。



【自分の考えをネームで示す】

自分の考えや立場をネームで示し、そう考えたその理由を発表しました。

6年生のみんなは、規則について「多くの人の思いによってできていること」「大切に、守っていかねばならないこと」に気付いたよ。みんなが決まりを守って、楽しい学校生活を♪送ることができるといいね♪



考えたこと・これからに生かしたいこと

規則だからといってこんな決めだというのはなく、いろんな立ち場から考えをみんながたとくどきするように規則を変えよう、とだと思えました。

考えたこと・これからに生かしたいこと

子犬のダンは許可されたことがとてもよかった。あと、子どもたちはわがままじゃなく、ちゃんと考えをもっていて、いことがえらいなあと思えました。

